

日	月	火	水	木	金	土
					1 あかちゃんおはなし会 10代向け学習席開放	2
3 よみきかせ	4	5	6	7 休館日	8 10代向け学習席開放	9 ブックスタート
10 よみきかせ	11	12	13 ブックスタート おしゃべりタイム	14	15 あかちゃんおはなし会 10代向け学習席開放	16
17 地域イベント 「井のいち」	18 休館日	19	20 ブックスタート おはなし会 おしゃべりタイム	21 児童イベント 「図書館利用者向け 託児サービス」	22 10代向け学習席開放	23 ブックスタート
24 一般イベント 「第7回歴史講座」 よみきかせ	25 休館日	26	27 ブックスタート おしゃべりタイム	28	29 10代向け学習席開放	30
31						

## おはなし会

「井のいち2026」  
へ出張します

## 地域イベント



## 講演会

第7回歴史講座  
「檀一雄没後50年記念 石神井ホテルと  
豊島館・見晴亭 ～檀一雄と石神井文士ゆかりの地」

## 一般イベント



毎年、石神井氷川神社で開催されるお祭り「井のいち」では、石神井図書館と南田中図書館が合同で特別なおはなし会を開きます。お祭りの日にぴったりの、わくわくするお話やパネルシアター、手あそびなど、子供から大人まで楽しめる内容が盛りだくさんです。にぎやかな境内の中で、図書館とはひと味ちがう読書体験を味わえるのも、この日ならではの魅力です。お祭りの楽しさと物語の世界が会うひとときに、ぜひ足を運んでみてください。



日時：令和8年5月17日(日)  
会場：石神井氷川神社 こもれびの庭  
※当日会場にお越しください。

石神井図書館・南田中図書館の合同おはなし会は午前10時から10時30分

無頼派で知られる作家・檀一雄は昭和17年に石神井の地に居を構えました。戦後石神井に集った太宰治や坂口安吾など、作家達の中心に檀一雄はいたのです。講演の題となっている「石神井ホテル」と「見晴亭」はかつて石神井公園の中にあった旅館です。檀一雄は石神井ホテルに逗留している期間に有名な「リツ子」ものを執筆した他、朋友であった太宰治や坂口安吾と親交を深めた舞台でもありました。(詳しくは講演でのお楽しみです。)

講師は歴史研究家・葛城明彦氏。今回も石神井図書館の歴史講座の特長である講演会と外歩きによる見学会を組み合わせた形式で開催。講演のあとに実際に歴史の起こった場所に赴き、五感をもって当時に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

檀一雄や当時の文壇、地域の歴史に興味をお持ちの方はふるってご応募下さい。

日時：令和8年5月24日(日) 午後1時～4時  
雨天時予備日：令和8年5月31日(日)午後1時～4時  
対象：一般(中学生以上)15名  
申込：ホームページ、電話、カウンターにて受付  
申込受付期間：5月14日(木)まで  
※定員を超えた場合は抽選となります。





## 第15回「井のいち」へ参加します

石神井氷川神社で2011年から毎年5月に開催している「井のいち」は、地域の個人店の店主や在住アーティスト達が主体の手づくりのイベントです。自然あふれる石神井公園を中心とした石神井・大泉・井草など、水にちなんだ地名が多いことから「井のいち」と名づけられました。当日は地元の方たちや遠方からの来場者で賑わいます。

境内には、地元や各地の作家の陶器、硝子、木工、染織、美術の作品、地域の個人店の飲食や農家の野菜などのブースが並びます。神楽殿では地元ゆかりのある音楽家がライブで演奏をします。

石神井図書館は、本の展示とおはなし会を通じて「井のいち」に参加しています。境内の「こもれびの庭」と呼ばれる場所で、2021年から南田中図書館と合同で実施しています。

会場の名前にちなみ、「こもれび図書館」と題して、井のいちに関わる方々に「まちの人に読んでほしい本」をおすすめしてもらい、図書館の蔵書の中から本を展示しています。2021年～2023年には、紹介されたコメントをブックリストにまとめて配布をしました。2024年、2025年は、「まちの人に読んでほしい本」を当日の来場者と、後日図書館内で展示をした際に募集しました。今年は昨年皆様から紹介された本を中心に展示をします。

おはなし会は、季節に合った大型絵本のよみきかせと、みんなで楽しめる手あそび、パネルアター等を行う予定です。

新緑のなか、地域の豊かな文化や多様な人々に出会える井のいちで、みなさまのご参加をお待ちしています♪



### 青少年展示のおすすめ

### 青少年図書



## 高校の部活動ミステリの傑作！

『氷菓』 米澤穂信 / 著 角川文庫

省エネ主義の高校生・折木奉太郎は、ひよんなことから廃部寸前の〈古典部〉に入部します。そこで出会ったのが、「わたし、気になります！」が口癖の好奇心旺盛な千反田える。彼女の疑問に巻き込まれる形で、奉太郎は部室に閉じ込められた理由や、先輩の残した謎など、身近に潜む小さな事件を次々と解き明かしていきます。本作の最大の見どころは、古典部の文集『氷菓』というタイトルに隠された真実。静かに積み上げられた伏線が、奉太郎の推理で一気につながる瞬間は爽快そのもの。大事件は起きないのに、ページをめくる手が止まらない“日常系ミステリ”の魅力が詰まった1冊です。推理の爽快さと、青春のほろ苦さが絶妙に混ざり合った物語です。(石神井図書館スタッフK.)



## 5月のピックアップ展示

令和8年4月28日(火)～令和8年5月24日(日)

青少年展示 「部活の本棚」



一般展示 「ハロー！石神井ブックス」



児童展示 「いろいろかぞく」



CD展示 「ようこそ春のBGM」

